

英国人の陶芸作家クリストファー・マクヒューさん(四三)が今月、愛知県瀬戸市を訪れた。お目当ては「ノベルティー」。戦前から戦後にかけて瀬戸で作られた陶磁器製の置物や装飾品のことだ。

剥製のようにリアルなワシ、内装も精巧に再現した馬車。メー

博士物焼き

目録

ド・イン瀬戸の作風にほれこみ、数年前から何度か来訪。今ではほとんど生産されないノベルティーの破片を集めるなどしてきた。

今回はノベルティーの工場跡を見学した。残された古びた絵筆に「作っていた様子をよりにイメージできる」と職人魂を感じた様子。

来年取り壊されることを聞き「もったいない」とため息をついた。

陶都の衰退は日本も英国も同じだが、マクヒューさんは言う。

「英国では何も残らないが、瀬戸には残っている。次世代に伝えたい」。青い目の焼き物博士の思いを大事にしたい。

(吉本章紀)